

高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災フォーラム」実践活動報告

取組のテーマ	
災害「いのちを守る。あなたならどう対応する。」 ～高校生防災セミナー・豊田市高校生消防クラブ・大規模地震災害合同訓練を通して～	
具体的な取組	
① 企画性	防災活動のリーダーとなる高校生防災セミナー参加生徒や豊田市高校生消防クラブ生徒の学校内外の活動内容を全校生徒に紹介し、防災意識の高揚と災害時に臨機応変に対応できる能力の育成を図る。 大規模地震による人的・社会的な被害等を最小限にするため、高等学校における初動体制の確立及び組織的対応力の向上を図ることを目的として、学校・消防署・自衛隊と連携した実践的な防災訓練を実施する。
② 主体性	高校生防災セミナー参加生徒や豊田市高校生消防クラブ生徒の校外活動では、各セミナーやカリキュラム活動に参加し、校内では防火・防災に関する活動を生徒が中心となり実施した。 大規模地震災害合同訓練では、教員主導の避難訓練（生徒・職員の避難及び消防署員や自衛隊員による負傷者等の救出活動）後、学年別に設定された活動（1年：自衛隊担当、2年生：高校生防災セミナー参加生徒及び豊田市高校生消防クラブの生徒が担当、3年生：消防署担当）を通して、災害時における実践的な訓練を実施した。
③ 対象	全校生徒・職員
④ 連携	豊田市消防本部予防課・豊田市南消防署消防1課・自衛隊愛知地方協力本部
⑤ 内容	1 高校生防災セミナー生徒の活動 (1) 校外活動（セミナーの講座内容）：8月22日（木） 「気象情報を活かす」・「災害時の医療」の講座を受講した。また、今年度の実践活動の経過報告を行った。 (2) 校内活動 ア 校内の消火器設備の確認（管理棟・教室棟・実習棟）：11月11日（月）・13日（水） ①表示板、②設置場所、③安全ピンのセット状況の3項目を確認した。表示板の剥がれが数か所あったので修理を行った。 イ 災害時の備蓄品の確認：11月14日（木）・15日（金） ①生徒用（飲料水・食料（乾パン））、②職員用（飲料水・食料（乾パン・ご飯・麺類））、③その他（ランタン・ローソク・簡易トイレセット・石油ストーブ・ヘルメット・ビニール袋等）の数量・賞味期限・仕分け状態・保管状態・表示等について確認した。賞味期限を過ぎている飲料水や食料については廃棄処分としたが、それ以外はほぼ良好であった。緊急時に備蓄品を運び出しやすくするため、倉庫内の整理整頓が

必要であると感じた。

ウ セミナー受講内容の伝達：12月6日（金）

大規模地震災害合同訓練の学年別活動にて、「高校生防災セミナーの受講内容」の報告と「災害時に役立つ便利なグッズの製作及び実演」を行った。



消火器設備の確認



消火器表示板の修理



備蓄品の確認



防災セミナーの報告



ポリ袋の合羽製作の実演



レジ袋の三角巾の実演

2 豊田市高校生消防クラブ生徒の活動

(1) 校外活動（カリキュラムの内容）：令和元年6月～令和2年3月の期間に6回実施

「避難所運営体験」・「救急救命講習（心肺蘇生法・AED）」・「防災学習センターの体験（防災学習・工作ワークショップ）」・「地域ふれあい活動（ブース運営・水消火器の使用方の指導）」・「消防出初式への参加及び訓練見学」・「1年間の活動のまとめ」等のカリキュラム活動に参加した。

(2) 校内活動

ア 秋の火災予防運動ポスターの製作・掲示：11月8日（金）～15日（金）

住宅用火災報知器設置のポスターの製作をし、昇降口の窓ガラスに掲示した。これにより、火災の早期発見に対する啓発活動を行った。

イ 秋の火災予防啓発運動：11月12日（火）～15日（金）

秋の火災予防運動期間中に火災予防に関する啓発文を作成し、昼休みの校内放送で放送した。内容は約3分程度にまとめ、防火防災を呼びかけた。

ウ カリキュラム（講座）内容の伝達：12月6日（金）

大規模地震災害合同訓練の学年別活動にて、2年生に「防災ワークショップの説明と実演」と「消火器の取扱い（初期消火訓練）」を行った。



心肺蘇生法・AED



避難所運営体験



救急救命・応急手当



火災予防啓発の録音



簡易トイレの説明



初期消火訓練

3 大規模地震災害合同訓練：12月6日（金）

授業中における避難経路の確認という観点にたち、教室棟・実習棟・管理棟・体育館・武道場など広範囲からの避難訓練を想定した。また、多数の生徒を救助するという観点にたち、救助自衛隊にも協力を要請し、消防署とコラボした救助活動とした。

消防署からの要望もあり、ドローンによる状況調査・搜索活動、はしご車による高所（建物4階）からの救助活動や倉庫の2階からの救助活動を取り入れた。多岐にわたる救助活動を行うことで臨場感のある避難訓練計画とした。

(1) 目的

- ア 大規模地震災害時に、人的・社会的被害を最小限にするため、初動体制の確立並びに組織的対応力の向上を図る。
- イ 次代の担い手を育成し、災害に強いまちづくりを目指して防災意識の高揚、避難経路の確認、避難・安全確保能力の育成を図る。

(2) 想定

- ア 通常の授業を実施している中、駿河湾を震源とする南海トラフ地震（震度5強）が発生した。
- イ 多数の生徒が負傷者。また、一部の教室が半壊し1クラス（40名）の生徒が教室から脱出できずに閉じ込められている。

(3) 参加者

- ア 全校生徒・職員：約800名
- イ 豊田市南消防署：21名
- ウ 自衛隊愛知地方協力本部：8名

(4) 概要

ア 避難放送による避難

- ①地震発生放送後、生徒・職員はシェイクアウト姿勢をとり、身の安全を確保する。
- ②避難命令放送後、室長がクラスの先頭に立って誘導し、副室長と教科担任が最後尾から安全確認しつつ避難・誘導の支援を行う。

イ 避難後の人員点呼・報告（負傷者や行方不明者等の状況把握）及び救助要請

- ①クラスごとに人員点呼後、本部へ報告。
- ②多数の生徒が負傷し、教室が半壊して1クラス40名の生徒が取り残され避難できない。→ 119番連絡・救助要請 → 消防車到着後、消防署員に状況報告。

(5) 主な救助活動

- ア ドローンによる状況調査及び搜索活動。（消防署）
- イ はしご車による管理棟4階の生徒（数名）の救出活動。（消防署）

ウ 倉庫2階の生徒（数名）の救出活動。（消防署）

エ 教室棟2階に取り残された生徒（1クラス約40名）の救出活動。（消防署・自衛隊）



シェイクアウト姿勢



グラウンドへ避難



点呼・本部報告



ドローンによる搜索活動



はしご車による救助



簡易担架による救助

(6) 学年別活動

避難訓練の終了後は学年別活動を実施した。消防署員及び自衛隊員から、地震災害時の救助活動に必要な知識や技能を説明してもらい、生徒がその内容を逐次実践することで技能の習得を図った。また、高校生防災セミナー生徒及び豊田市高校生消防クラブの生徒がセミナーやカリキュラム講座で学んだ内容を他の生徒に伝達する場となるよう計画した。

ア 1年生【自衛隊担当】

- ①簡易担架の製作と搬送
- ②生徒同士によるけが人の搬送
- ③人命救助

イ 2年生【高校生防災セミナー参加生徒・豊田市高校生消防クラブ生徒担当】

- ①高校生防災セミナー参加生徒・豊田市高校生消防クラブ生徒の活動紹介
- ②水消火器による消火活動
- ③救急処置

ウ 3年生【消防署担当】

- ①応急手当（心肺蘇生と胸骨圧迫、AEDの使用方法等）



人命救助活動



災害時に活用できるロープワーク



応急手当

効果と課題

【効果】

- 1 防災セミナー生徒及び豊田市消防クラブ生徒は、校外のセミナーや講座で学習したり、校内活動を通して防災リーダーの自覚がもてた。そして、他の生徒にその内容を伝達することで、全校生徒の防災意識の高揚を図ることができた。
- 2 大規模地震災害合同訓練を通して、生徒、職員ともに新しい避難経路の確認と通常の授業場所からの避難状況の把握ができ、避難時に臨機応変に対応する能力の育成ができた。
- 3 消防署・自衛隊・学校の3つの組織が連携した臨場感ある合同訓練を通して、災害時に連携することの大切さと、連携するときに必要な具体的な有益情報が得られた。

【課題】

- 1 一年に一度のセミナーや講座内容の伝達では、全校生徒の高い防災意識の高揚にはつながらないので、資料を作成して配布したり、発表会の場を設けるなどの工夫が必要である。
- 2 訓練の中で、学校内に組織されている「自衛防災組織」への展開が必要である。そうすることで、災害時の職員と生徒の役割が明確となり、職員と生徒が速やかに救助活動に参加することが可能である。
- 3 実施日時が予告されている避難訓練は緊張感に欠けるため、予告なしの訓練でないと本当の問題点が分からないのではないかという意見が出された。これについては、年に2回実施する通常の防災訓練で取り入れたい。
- 4 廊下等に設置してある救助袋や避難ハシゴの使い方が分からない。災害時に活用できるよう避難訓練において使い方の練習しておく必要がある。
- 5 災害時に学校は地域の避難場所になるため、地域の人たちが参加する防災訓練が必要である。これを実施することで、地域における学校の役割や職員・生徒の役割も確認することができる。
- 6 大規模地震災害合同訓練も今年で2年目となる。今後も継続して実施することを考えると、しっかりとテーマ設定をおこない、訓練内容を十分に検討して実施することが必要である。